

社長の一棟入魂!!!

春が待ち遠しい時期になりました。

日頃は大変お世話になりますありがとうございます。

昨年になりますが、日本経済新聞にショッキングな記事の見出しがありました。

「大工、20年間で半減 若者が敬遠 住宅の修繕停滞、懸念」

今まさにこの懸念が、石川県の被災地で見受けられているようです。

大工が減る理由や原因是多岐に渡ると思いますが、一番の原因是

「建築会社の社長の考え方」にあると思います。社長が、若い大工を

育成することを経営指針に掲げることで、一人でも多くの若い人が大工

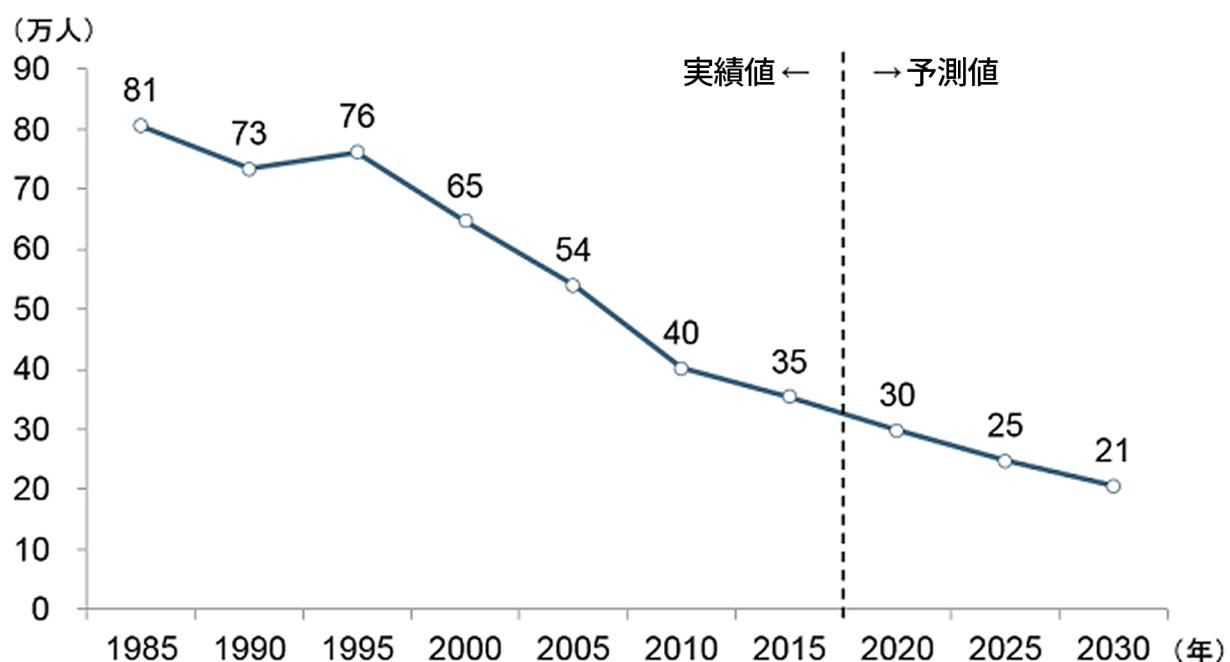
を目指そうという気になると思いますが、大半の建築会社でできていない(していらない)のが現状です。その理由は簡単で「外注が楽」「指導する大工が会社にいない」です。

手前味噌で恐縮ですが、弊社では10年ほど前から、高卒、大卒の若い見習い大工を正社員で雇用し育成しています。私には、大工育成は工務店の社会的な役割との信念があるので今も続けております。

入社してくれる大工も信念を持っている人が大半なので、離職も少なく常に前を見て日々仕事をしております。

徳島県の建築会社の社長すべてが、若い大工の育成を積極的に行うことで、大きな震災があっても迅速に修繕対応でき復興も早いのではと痛感しております。

下のグラフは全国の大工人口推移になります。(総務省国勢調査より)



右肩下がりの大工人口をせめて横ばいにする努力が必要不可欠です。

山田文夫